

【部課名：健康こども部健康づくり課】

事業名		事業目的/概要		総合計画の指標			取組みの成果/指標への影響	事業の課題/今後の取組み
健康診査事業		健康に関する正しい知識の普及及び生活習慣病の発症を予防し、生涯にわたり健康的な生活習慣を獲得できるよう動機づけを行うことを目的とする。		指標	総計の現状値	R7実績値	周知方法の工夫や受診機会の拡大、インセンティブ付与等に取り組んだ結果、前年度と比較して受診率の向上がみられた（骨粗しょう症検診〔8.6%（R6:7.5%）〕、成人歯科健診〔5.7%（R6: 5.2%）〕。骨粗しょう症検診では、検診当日にハイリスク者への保健指導を実施し、検診後のフォロー体制の充実を行った。各種健（検）診の受診を通じて、自らの健康状態を把握する機会や健康づくりへの動機づけの機会となり、市民のヘルスリテラシーの向上が図られた。	周知方法の工夫や受診機会の拡大等により受診率の向上がみられたことから、今後もこれらの取組を継続するとともに、さらなる受診率の向上に向け、予約時の受診勧奨や複数の健（検）診との同時実施など受診しやすい環境づくりを進める。また、健（検）診後は、疾病の予防や早期発見・早期治療につなげるため、保健指導や受診勧奨など、フォロー体制の充実を図る。
総合計画の位置づけ		事業内容：健康診査、骨粗しょう症検診、胃がんリスク検査、肝炎ウイルス検診、成人歯科健診、在宅訪問歯科健診		健康に関心があり、健康活動に取り組んでいる市民の割合	67.2%	55.0%		
基本目標	みんなが生き生きと心豊かに健やかに暮らせるまち							
個別目標	ヘルスリテラシーが高くそれぞれの身体と心の状態にあった多様な健康づくりが実践できるまち	事業費（うち市負担額）【千円】						
		R6決算額	9,599	6,714				
個別目標の方向性	病気の早期発見と重症化予防に取り組みます	R7決算見込額	9,544	6,564				
		R8予算額	11,743	8,229				

事業名		事業目的/概要		総合計画の指標			取組みの成果/指標への影響	事業の課題/今後の取組み
健康管理事業		健康に関する正しい知識の普及・啓発を行い、生活習慣病の発症予防及び生涯にわたって実践できる健康的な生活習慣の獲得により、市民のヘルスリテラシーを高め、健康寿命の延伸及び生活の質（QOL）の向上につなげることを目的とする。		指標	総計の現状値	R7実績値	健康チェックDayやおでかけ保健室、セルフ健康チェックコーナーなど、定期・出張・常設の3方向から健康状態の見える化に取り組み、健康チェック実施者数は5,834件（R6:5,499件）に増加した。また、歯周病予防教室や運動教室など、健康教育を83回（3,502人）実施した。特に、健康ラポでは、栄養士に加え、薬剤師、歯科衛生士等による専門職によるワークショップを実施し、学びの専門性の強化を行うことで、ヘルスリテラシーの向上が図られた。	子育て世代や働く世代は、次世代の健康づくりにも影響を与える重要な世代であるが、仕事や子育てなどにより健康教育等に参加しにくい現状がある。そのため、土日開催の教室や親子が集まるイベントなど、参加しやすい機会を確保することで青壮年期の参加促進を図るとともに、周知方法の工夫や事業内容の見直しを行い、より多くの市民が健康づくりに取り組みやすい環境づくりを推進する。
総合計画の位置づけ				健康に関心があり、健康活動に取り組んでいる市民の割合	67.2%	55.0%		
基本目標	みんなが生き生きと心豊かに健やかに暮らせるまち			健康チェック実施者数	4,115件	5,834件		
個別目標	ヘルスリテラシーが高くそれぞれの身体と心の状態にあった多様な健康づくりが実践できるまち	事業費（うち市負担額）【千円】						
		R6決算額	8,829	8,176				
個別目標の方向性	一人ひとりが未病予防対策を主体的に取り組むことのできる環境づくりを進めます	R7決算見込額	2,231	1,556				
		R8予算額	2,276	1,588				

事業名		事業目的/概要		総合計画の指標			取組みの成果/指標への影響	事業の課題/今後の取組み
食育推進事業		食の体験活動を通して食への興味や関心を高めるとともに、食の知識を身につけることで健康的な食生活を実践し、健康な身体づくりをはじめ、健康づくりにつなげることを目的に、親子での体験活動やライフステージに応じた食育講座、野菜摂取量増加に向けた環境づくり、正しい知識の啓発、食のボランティア育成などを実施。		指標	総計の現状値	R7実績値	野菜摂取量の増加に向け、保健センターにベジチェック(推定野菜摂取量測定器)を常設設置したことで、食生活の見える化実施者数は3,744人(R6 3,249人)に増加し、平均測定値も6.1に増加した。また、ベジタベキャンペーン（野菜たっぷりメニュー）の協力店も7店舗に増加した。さらに、親子を対象にした農業体験、ぬか床作り体験、みそ作り教室、思春期や青壮年期等を対象にした調理実習など、各ライフステージに応じた取組を実施し、食や健康づくりへの関心を高めることができた。	ベジチェックの測定者数の増加や平均値の改善が見られたことから、さらなる測定者数の増加及び野菜摂取量の改善に向け、市役所フロアを活用した健康展示ブースへのベジチェック併設など、利用機会の拡大を図る。また、健康を意識した食生活を促進するため、ベジタベキャンペーンの促進やイベント等でのベジチェックの実施、食の体験活動やSNS等を活用した発信など、さらなる取組を進める。
総合計画の位置づけ				健康を意識した食事を心がけている市民の割合	73.3%	59.6%		
基本目標	みんなが生き生きと心豊かに健やかに暮らせるまち			ベジチェック平均測定値	5.3	6.1		
個別目標	ヘルスリテラシーが高くそれぞれの身体と心の状態にあった多様な健康づくりが実践できるまち	事業費（うち市負担額）【千円】						
		R6決算額	1,246	710				
個別目標の方向性	ライフコースアプローチを見据えた食育の推進に取り組みます	R7決算見込額	830	407				
		R8予算額	895	773				

事業名		事業目的/概要			総合計画の指標			取組みの成果/指標への影響	事業の課題/今後の取組み
あしゆびプロジェクト事業		あしゆびから健康な身体づくりをめざし、全身を支える土台である足機能の重要性を周知するため、足を正しい状態に整え、正しい姿勢と動作で健康な身体を維持できるよう、足の状態の可視化や健康教育、リーフレットによる啓発を行うとともに、評価指標に基づく事業評価を実施し、令和7年度は取り組みを全国に向けて発信していく。			指標	総計の現状値	R7実績値	あしゆび力測定者数はR7年度:2,528人（R6:2,471人）で増加し、あしゆびプロジェクトの認知度は46.9％（R6 46.1％）と向上した。また、運動習慣の少ない青壮年期をターゲットに親子あしゆびセミナーを開催し、参加者の健康づくりへの関心を高めることができた。さらに、R6年度に作成したプロモーション動画を活用し、2025大阪・関西万博であしゆびプロジェクトの取組を全国へ発信した。これらの取組により、市民の健康づくり施策の認知度向上と健康づくりの気運醸成につながった。	今後も、より多くの市民にあしゆびを意識した健康づくりを実践してもらうため、あしゆび力測定に加え、身体の手台となるあしゆびや姿勢の状態を見える化し、健康づくりへの意識向上につなげる取組を進める。また、リーフレットの配布による周知啓発や、足・姿勢・呼吸を整える方法の普及に取り組むとともに、ライフステージに応じた評価指標を用いて事業効果を検証する。
総合計画の位置づけ					健康に関心があり、健康活動に取り組んでいる市民の割合	67.2%	55.0%		
基本目標	みんなが生き生きと心豊かに健やかに暮らせるまち	事業費（うち市負担額）【千円】			健康チェック実施者数	4,115件	5,834件		
個別目標	ヘルスリテラシーが高くそれぞれの身体と心の状態にあった多様な健康づくりが実践できるまち	R6決算額	22,525	0					
個別目標の方向性	一人ひとりが未病予防対策を主体的に取り組むことのできる環境づくりを進めます	R7決算見込額	2,077	0					
		R8予算額	1,423	0					
事業名		事業目的/概要			総合計画の指標			取組みの成果/指標への影響	事業の課題/今後の取組み
アピアランスサポート事業		がん患者の療養生活に対する質の向上、がん治療と社会参加の両立及び経済的負担の軽減を図る。がんの治療に伴う外見上の変化により、社会参加への不安や悩みを持つがん患者の方に医療用ウィッグ及び乳房補正具の購入費用を助成する（上限額2万円の全額負担）。			指標	総計の現状値	R7実績値	購入費用の助成：22件（医療用ウィッグ21件、乳房補正具2件（うち両方利用1件））。ウィッグや乳房補正具は、高額であり生涯1回限りの助成であることから、助成金額の見直しを行い、購入費用の1/2助成から上限2万円の助成へと拡充し、経済的負担の軽減を図った。また、助成対象者へのアンケート結果から把握したニーズを踏まえ、治療や副作用に関する情報、身体の変化に対するセルフケア方法等をホームページに掲載し、療養生活の質の向上につなげた。	引き続き、助成対象者へのアンケートを実施し、把握したニーズや問い合わせ内容を踏まえ、ホームページ等による情報発信や事業の周知啓発を行うことで、必要な方が適切に支援を受けられるように取り組む。
総合計画の位置づけ					健康に関心があり、健康活動に取り組んでいる市民の割合	67.2%	55.0%		
基本目標	みんなが生き生きと心豊かに健やかに暮らせるまち	事業費（うち市負担額）【千円】							
個別目標	ヘルスリテラシーが高くそれぞれの身体と心の状態にあった多様な健康づくりが実践できるまち	R6決算額	437	0					
個別目標の方向性	一人ひとりが未病予防対策を主体的に取り組むことのできる環境づくりを進めます	R7決算見込額	440	0					
		R8予算額	622	22					
事業名		事業目的/概要			総合計画の指標			取組みの成果/指標への影響	事業の課題/今後の取組み
健康力向上プロジェクト事業		未病予防対策先進都市をめざし、健康課題の解決に向けた実証実験や、病気になる前の段階からの健康づくりに取り組み、ヘルスリテラシーや生活の質（QOL）の向上につなげていくことを目的とし、健康サポートアプリを活用した健康づくり活動や未病予防対策など、多様な健康づくりの取り組みを官民連携・市民共創で実践していく。			指標	総計の現状値	R7実績値	健活アプリ（アスマイル）の登録者数は年度末で4,960人（R6 4,654人）と増加し、アプリを活用した健康づくりへの意識向上につながった。また、未病への気づきを促し、個人に合った具体的な取組の提案や行動変容を促す未病予防健診を開始（未病女子チェック170人、腸内環境チェック201人）。さらに、動脈硬化度測定器の導入など、市民が自身の健康状態を把握できる多様な機会を提供することで、健康への関心やヘルスリテラシーの向上につながった。	未病予防、生活習慣の改善など、市民が主体的に健康づくりに取り組めるよう、健活アプリの活用促進や自身の健康状態を把握できる機会の提供、未病予防健診の受診勧奨・周知啓発を図る。
総合計画の位置づけ					健康に関心があり、健康活動に取り組んでいる市民の割合	67.2%	55.0%		
基本目標	みんなが生き生きと心豊かに健やかに暮らせるまち	事業費（うち市負担額）【千円】			健康チェック実施者数	4,115件	5,834件		
個別目標	ヘルスリテラシーが高くそれぞれの身体と心の状態にあった多様な健康づくりが実践できるまち	R6決算額	23,709	21,285					
個別目標の方向性	一人ひとりが未病予防対策を主体的に取り組むことのできる環境づくりを進めます	R7決算見込額	17,169	16,189					
		R8予算額	17,310	16,935					

事業名		事業目的/概要		総合計画の指標			取組みの成果/指標への影響	事業の課題/今後の取組み
新型コロナワクチン副反応等対策事業		新型コロナワクチンの副反応や新型コロナウイルス感染症の後遺症などで悩まれている方の不安や、身体的・経済的負担の軽減を目的とし、相談及び症状を軽減するための支援等を実施するとともに、新型コロナワクチンによる副反応により健康被害を受けた方に、医療費などを支援金として支給する。		指標	総計の現状値	R7実績値	令和7年度から、対象者を新型コロナウイルス感染症に関わる症状の人に限らず、未病状態にある人も含めた、「未病予防コンディショニング」として、個別プログラム6回（8名）、集団プログラム（ヨガや呼吸法などのセミナー）4回（59人）実施した。また、未病予防相談（医師との対面相談）を12回（42人）実施し、一人ひとりの症状や不安に応じた相談支援を行うことで、症状の軽減・改善や不安の軽減、未病予防につながった。 新型コロナワクチン健康被害支援金：0件	個別プログラムの対象者の拡大を図り実施したが、参加者が減少しているため、運営体制の見直しが必要である（回数、内容など）。
				健康に関心があり、健康活動に取り組んでいる市民の割合	67.2%	55.0%		
総合計画の位置づけ								
基本目標	みんなが生き生きと心豊かに健やかに暮らせるまち							
個別目標	ヘルスリテラシーが高くそれぞれの身体と心の状態にあった多様な健康づくりが実践できるまち	事業費（うち市負担額）【千円】						
		R6決算額	22,155 149					
個別目標の方向性	一人ひとりが未病予防対策を主体的に取り組むことのできる環境づくりを進めます	R7決算見込額	11,903 9					
		R8予算額	7,885 909					